

京都大学大学院 教育学研究科紀要 第65号

心理療法において異質な自分と出会うことの意義

自死を望む人への心理臨床家のありかた

ロールシャッハ法における父親・母親イメージカード選択の実態

こころの葛藤のアセスメント

精神分析的心理療法における「心的変化」

日本におけるスクールカウンセリングの事例報告から見たその特徴と実践知の検討

児童福祉施設における暴力の防止と解決への実践の検討

室内画の基礎的研究

「自己」の感覚はいかにして生ずるか？

臨床心理学における子どもの描画に関して

臨床心理学において質的研究はどのように語られてきたか

慢性の病いを抱えて生きるひとの羨望に目を向け、かかわる意味

「心理的両性具有」の概念および測定法に関する文献展望

日本におけるフィリピン人外国語指導助手（ALT）の雇用問題

漱石をめぐる闘争

日本教育テレビにおける番組種別の読み替えと種別の量的変化

京都大学大学院 教育学研究科紀要 第65号

目 次

論 文：

心理療法において異質な自分と出会うことの意義……………	不破早央里	1
- 理論研究と調査研究を踏まえて -		
自死を望む人への心理臨床家のありかた……………	桑本佳代子	15
ロールシャッハ法における父親・母親イメージカード選択の実態……………	石井 佳葉	29
こころの葛藤のアセスメント……………	元木 幸恵	43
- ロールシャッハ法を中心に -		
精神分析的心理療法における「心的変化」……………	大森 智恵	53
- 「心的空間」の視点から -		
日本におけるスクールカウンセリングの事例報告から見たその特徴と実践知の検討……………	竹森 元彦	67
児童福祉施設における暴力の防止と解決への実践の検討……………	佐々木大樹	81
室内画の基礎的研究……………	西 珠美	95
- Big Five モデルとの関連から -		
「自己」の感覚はいかにして生ずるか？ ……………	松岡 利規	109
- 自己感をめぐる心理学的研究の概観と展望 -		
臨床心理学における子どもの描画に関して……………	大場有希子	123
- 相互交流としてのスティグルを中心に -		
臨床心理学において質的研究はどのように語られてきたか……………	野田 実希	137
- 質的研究の認識論における臨床的可能性に向けて -		
慢性の病いを抱えて生きるひとの羨望に目を向け、かかわる意味……………	鎌田 依里	151
「心理的両性具有」の概念および測定法に関する文献展望 ……………	大澤 尚也	165
日本におけるフィリピン人外国語指導助手 (ALT) の雇用問題 ……	杉本 均・山本 陽葉	179
- 外国青年招致事業 (JET) などを中心に -		
漱石をめぐる闘争……………	椎名 健人	201
- 「木曜会」共同体にみるホモソーシャルな関係性 -		
日本教育テレビにおける番組種別の読み替えと種別の量的変化……………	木下 浩一	219
モンゴルの大学の管理運営制度に関する考察……………	ジャルガルサイハン ジャルガルマー	233
- 体制移行の比較的検討を通じて -		
「社会人の学び直し」に関する政策の現状と課題 ……………	奥村 旅人	247
3・1 節の周年報道における対日感情の検討 ……………	趙 相宇	261
- 1970 年代の韓国社会を中心に -		
大正期『大阪時事新報』におけるローカル性の展開……………	松尾 理也	275
- 1924 年米「排日移民法」をめぐる報道から -		

中国における応用技術型大学への転換計画に影響を与える要因……………	張 潔麗	289
- 地方政府間の違いに着目して -		
儀礼的行為と教育文化……………	舩本佳菜江	303
- 熊本県上天草市松島町の盆儀礼における「間」に着目して -		
ジョン・デューイの「子ども中心主義」批判……………	西郷南海子	317
- 子どもの表現活動をめぐる M. ノームバーグとの論争に着目して -		
大学推薦入試の展開と現状……………	次橋 秀樹	331
- 現代における推薦入試の類型化試案 -		
1970年代の総合学習の教育課程上の位置づけ……………	中西修一朗	345
- 『教育課程改革試案』における技術科との関係に注目して -		
ランシエールの「知識の美学 = 感性論」……………	藤本 奈美	359
- 市民性教育の再考 -		
アメリカにおけるアドベンチャー教育論に関する一考察……………	徳島 祐彌	373
- 単元設計と授業計画における教科内容の位置づけに着目して -		
S. B. ロビンズーンによるカリキュラム概念の受容……………	市川 和也	387
アメリカの作文教育における創造性の史的展開……………	森本 和寿	401
- 19世紀末から20世紀初頭の議論に焦点を合わせて -		
大学教育における情報リテラシーの能力基準に関する検討……………	飯尾 健	415
- 国立大学図書館協会『高等教育のための情報リテラシー基準』の拡張に向けて -		
高大接続における大学の役割と機能……………	郭 暁博	429
- 米国の Advanced Placement プログラムに焦点を当てて -		

資 料：

研究費……………	443
プロジェクト活動	
教育実践コラボレーション・センター……………	447
グローバル教育展開オフィス……………	450
博士論文……………	452
修士論文……………	453
卒業論文……………	455
執筆者一覧……………	458
京都大学大学院教育学研究科紀要投稿規程……………	459

Facing the Other Self in Psychotherapy: Examination of Theoretical and Survey Research	FUWA Saori	1
Psychological Clinician's Way to Those Who Desire Self-Death	KUWAMOTO Kayoko	15
Selection of Father and Mother Image Cards in the Rorschach Technique	ISHII Kayo	29
Assessment in Psychological Conflict: Special Reference to Rorschach Method	MOTOKI Sachie	43
"Psychic Change" in Psychoanalytic Psychotherapy: From the Viewpoint of "Psychic Space"	OMORI Tomoe	53
Characteristics and Practical Wisdom from Case Reports on School Counseling in Japan	TAKEMORI Motohiko	67
Practices and Issues of Preventing Violence against Children in Child Welfare Institutions	SASAKI Daiki	81
Fundamental Study on the Room-Drawing Test: Relationship between the Big Five Model and Drawing	NISHI Tamami	95
How Do We Feel the "Self" ? Overview of and Perspectives on Psychological Research on the Sense of Self	MATSUOKA Toshiki	109
A Study of Children's Drawings in Clinical Psychology: Focusing on the Squiggle Game as Mutual Communication	OBA Yukiko	123
Discussions on Qualitative Research in Clinical Psychology: Perspectives on Clinical Possibility in the Epistemology of Qualitative Research	NODA Miki	137
Therapeutic Significance of Attention to Envy in People Living with Chronic Illness	KAMADA Eri	151
On the Concept and Measurement of "Psychological Androgyny": A Literature Review	OSAWA Naoya	165
Employment Issues of Filipino Assistant Language Teachers in Japan Focusing on JET and Other Programs	SUGIMOTO Hitoshi, YAMAMOTO Akiyo	179
Struggle Over Soseki Natsume: Homosocial Friendship in "Mokuyoukai"	SHIINA Kento	201
Replacement and Quantitative Change of Program Types in Nippon-Educational-Television	KINOSHITA Koichi	219

Consideration on Governance System of University in Mongolia: Through Comparative of System Transition	JARGALSAIKHAN Jargalmaa	233
Current Status and Problems of Policy Regarding “Working People’s Re-learning”	OKUMURA Takahito	247
The Study of “Anti-Japanism” through the Anniversary Press of 3.1: Focusing on South Korea of the 1970s	CHO Sangwoo	261
The Development of Locality in Osaka Jiji Shimpo of the Taisho Era: From Reports on Anti-Japanese Immigration Law in 1924	MATSUO Michiya	275
Factors Affecting Transformation Plan of China’s Applied Sciences Universities: Focusing on the Differences among Local Governments	ZHANG Jieli	289
The Ritual Performance and the Culture of Education: Focusing on the <i>Ma</i> in the <i>Bon</i> Ritual in Matsushima Town, Kami-Amakusa City, Kumamoto Prefecture	MASUMOTO Kanae	303
John Dewey’s Criticism of “Child-Centeredness”: A Study Focused on the Controversy between Dewey and Naumburg on Children’s Artistic Activities	SAIGO Minako	317
The Present Situation and History of Examination for Selected Candidates: A Trial Proportion of Classifying in its Patterns	TSUGIHASHI Hideki	331
The Role of Sogo-Gakushu in Curriculum in 1970s: Focus on the Relation with the Subject of Technology	NAKANISHI Shuichiro	345
On Rancière’s Aesthetics of Knowledge: Reconsidering Citizenship Education	FUJIMOTO Nami	359
Research on Adventure Education Theory in the USA: Focus on Subject Matter in Unit Design and Lesson Planning	TOKUSHIMA Yuya	373
Acceptance of the Concept of the Curriculum by Saul B. Robinsohn	ICHIKAWA Kazuya	387
Historical Development of Creativity in American Composition Pedagogies: Focusing on Controversy from the Late 19 th Century to the Early 20 th Century	MORIMOTO Kazuhisa	401

Study of Competency Standards of Information Literacy in Higher Education: Toward the Expansion of Japan Association of National University Libraries “Information Literacy Standards for Higher Education”

..... IIO Ken 415

University Role and Function in Articulation between Upper Secondary Schools and Universities: Focus on Advanced Placement Program in the USA

..... GUO Xiaobo 429

研 究 費

研 究 費

年月日	研 究 課 題 名	氏 名
2018.4.1	基盤研究 (B) 戦後東アジア諸地域における教育の比較史的分析—冷戦と植民地主義に着目して—	駒込 武
2018.4.1	基盤研究 (B) 21世紀型コンピテンシー育成のためのカリキュラムと評価の開発	矢野 智司
2018.4.1	基盤研究 (A) Understanding, measuring, and promoting crucial 21st century skills: Global communication, deep learning, and critical thinking competencies	Manalo Emmanuel
2018.4.1	基盤研究 (A) 身体的表象から自他分離表象にいたる発達プロセスの解明	明和 政子
2018.4.1	基盤研究 (B) なつかしさ感情の機能と個人差：認知・神経基盤の解明と応用	楠見 孝
2018.4.1	基盤研究 (B) 戦後日本における政治家・財界人の教育観に関する教育社会学的研究	稲垣 恭子
2018.4.1	基盤研究 (B) 後発国における大学院教育及び学位制度の導入と変容に関する比較研究	南部 広孝
2018.4.1	基盤研究 (B) パフォーマンス評価を活かしたカリキュラム・マネジメントの改善方略の開発	西岡加名恵
2018.4.1	基盤研究 (B) ゼロ年代以後の教育歴とライフコースの変化に関するパネル調査研究	岩井 八郎
2018.4.1	基盤研究 (B) 養育行動が幼児の実行機能を媒介して社会的行動に寄与する過程の発達認知神経科学研究	森口 佑介
2018.4.1	基盤研究 (C) ケアとスピリチュアリティの教育人間学的解明—女性宗教者への聞き取り調査を中心に	西平 直
2018.4.1	基盤研究 (C) 音韻的作動記憶における系列情報保持を支える時間構造の長期知識	齊藤 智
2018.4.1	基盤研究 (C) 資質・能力を育てる授業デザインと教師の力量形成に関する開発研究	石井 英真
2018.4.1	基盤研究 (C) 新しい数学基礎教育のための Precalculus 教科書作成	藤本 一郎
2018.4.1	基盤研究 (C) 心理アセスメントにおけるスーパーヴィジョンシステムの構築	高橋 靖恵
2018.4.1	基盤研究 (C) 〈哲学の女性性〉とアメリカ哲学のグローバルな再生：政治教育の実践哲学研究	齋藤 直子
2018.4.1	基盤研究 (C) 教師力（タクト）熟達の日独比較—学校日常の緊急性・不確実性対処に関する実証研究	鈴木 晶子
2018.4.1	基盤研究 (C) 森有礼文部大臣時代の教育政策に関する総合的研究—「森文政」期像の再構築—	田中 智子
2018.4.1	基盤研究 (C) 特設 紛争の発生とその緩和に関わる人間本性の理解—心理・神経・遺伝学的研究—	野村 理朗

2018.4.1	基盤研究 (C) 国際博覧会条約 (1928 年) 及び博覧会国際事務局 (1931 年) の成立に関する研究	佐野真由子
2018.4.1	基盤研究 (C) 大正・昭和初期都市新中間層における理想的人間像の形成と変容	竹内 里欧
2018.4.1	基盤研究 (C) 教育成果の質的測定を活用した教員・学校・教委連携型教育改善システムの開発的研究	服部 憲児
2018.4.1	基盤研究 (C) 非英語圏トランスナショナル高等教育の展開に関する国際比較研究	杉本 均
2018.4.1	挑戦的萌芽研究 「夢の構造分析」に関する発達の・比較文化的・心理臨床的研究	田中 康裕
2018.4.1	挑戦的萌芽研究 文化装置としての「師弟関係」に関する歴史社会学的研究	稲垣 恭子
2018.4.1	挑戦的萌芽研究 誤報記事と新聞批判のメディア史的研究	佐藤 卓己
2018.4.1	挑戦的萌芽研究 評定尺度法に対する回答の個人差と集団差を同時補正するための新たな方法の開発と評価	高橋 雄介
2018.4.1	挑戦的研究 (萌芽) 子供の直観像に関する発達認知神経科学的研究	森口 佑介
2018.4.1	若手研究 (B) 宗教を取り入れた道徳教育による人間形成の理論と実践に関する研究	広瀬 悠三
2018.4.1	若手研究 (B) 近世教育メディア史における「無料」の価値—「施印」に着目して	ファンステーン パール ニールス
2018.4.1	若手研究 (B) Is An Alternative Concept of Learning Driving East Asian Academic Achievement? Comparisons of PISA Performance with Implications for Policy Reforms	Rapplee Jeremy
2018.4.1	若手研究 (B) Round Study の有効性の検証と評価シートの開発・効果検討	黒田真由美
2018.4.1	若手研究 (B) 図書館の社会的責任に関する戦後史研究	福井 佑介
2018.4.1	新学術領域研究 (研究領域提案型) オープン・データを活用した思春期・青年期・成人期早期における主体価値の諸相の解明	高橋 雄介
2018.4.1	研究活動スタート支援 高大接続における制度構築の可能性と課題—米国の AP に注目して—	郭 暁博
2018.8.24	研究活動スタート支援 海外に長期滞在する日本人家庭の心理社会的適応	安藤 幸
2018.8.14	研究活動スタート支援 視覚—触覚間統合にかかわる神経応答の敏感期とそのメカニズムの解明	田中友香理
2018.10.9	国際共同研究強化 (B) 他なるものとの共存に向けた政治教育：日本先導によるアメリカ実践哲学の国際対話研究	齋藤 直子
2018.10.9	国際共同研究強化 (B) 認知リソース概念の誤謬に挑む国際共同研究	齊藤 智
2018.4.1	特別研究員奨励費 『子どもの美術』とデューイ美的経験論の架橋：Life のための哲学と教育の融合研究	西郷南海子

研 究 費

2018.4.1	特別研究員奨励費 階層構造および教育制度の変化が世代間移動に与えた影響—インドネシアを事例に	高田健太郎
2018.4.1	特別研究員奨励費 プランニング・実行機能と先行経験がスクリプトの遂行に及ぼす影響	柳岡 開地
2018.4.1	特別研究員奨励費 セクシュアル・マイノリティと「強い個」の育成：エマソンのアメリカ哲学の現代的意義	曾我部和馬
2018.4.1	特別研究員奨励費 リスクに関する社会的論争を読み解くリスクリテラシーのアセスメントと育成	伊川 美保
2018.4.1	特別研究員奨励費 集中瞑想および洞察瞑想が感情調整に与える効果とその神経基盤の解明	藤野 正寛
2018.4.1	特別研究員奨励費 作動記憶における意味表象の能動的保持	西山 亮二
2018.4.1	特別研究員奨励費 援助行動が被援助者にネガティブな影響を及ぼす要因の解明	河村 悠太
2018.4.1	特別研究員奨励費 足場なき人間形成論の解明—エーリッヒ・フロムの思想の現代的意義をめぐ る学際研究	森田 一尚
2018.4.1	特別研究員奨励費 効果的な単位認定型高大接続プログラムの運営形態に関する日米比較研究	西川 潤
2018.4.1	特別研究員奨励費 社会的場面におけるワーキングメモリ機能とその認知的基盤	石黒 翔
2018.4.1	特別研究員奨励費 モンゴルの高等教育における大学の管理運営の特色	Jargalsaikhan Jargalmaa
2018.4.25	特別研究員奨励費 協力する動機の起源：乳児による援助行動を駆動する心理・神経メカニズム の実証的検討	Meng, Xianwei
2018.4.25	特別研究員奨励費 自伝的記憶への他者視点を用いたメタ認知的再評価に関わる神経基盤の解明	塩田 翔一
2018.4.25	特別研究員奨励費 虐待の世代間伝達に関する心理・生理学的検討	平岡 大樹
2018.4.25	特別研究員奨励費 記憶の意図的な抑制メカニズムの検討	西山 慧
2018.4.25	特別研究員奨励費 韓国ナショナリズムと対日ノスタルジア研究：「嫌悪」と「親密」の相互依存 関係性から	趙 相宇
2018.4.25	特別研究員奨励費 1950年代前半における「子どもを守る」運動の射程	山口 刀也
2018.4.25	特別研究員奨励費 アメリカにおける作文教育の検討：技能教授と生活表現の統合	森本 和寿
2018.10.12	特別研究員奨励費 現代日本における「スピリチュアルケア」調査とその社会的機能に関する総 合的研究	Benedict Timothy O' Neal

教育実践コラボレーション・センター
「子どもの生命性と有能性を育てる教育・研究を目指して」

〈活動概要〉

平成 19 年度から教育学研究科では特別教育研究経費（教育改革）による「子どもの生命性と有能性を育てる教育・研究推進事業」のプロジェクトが立ち上げられ、教育実践コラボレーション・センターとして、さまざまな活動をおこなってきている。

教育実践コラボレーション・センターの目的は、現場から持ち込まれた具体的な問題に対し、異分野融合チームを組織するなどして、教育学研究科としての組織的な対応をコーディネートすることにある。その際、子どもをめぐる教育問題の中心を「生命性を深めること」（心の問題）と「有能性を高めること」（学力問題）という 2 つの軸として取り出し、そのトータルな育成の方法を探る。また、教育研究におけるマクロ的アプローチ（教育制度学や教育社会学や比較教育学）とミクロ的アプローチ（認知心理学や心理臨床学や教育哲学）を統合しつつ研究を進めている。

平成 25 年度からは科学研究費補助金（基盤研究 A）が採択され、「学校を中心とする教育空間における力動的秩序形成をめぐる多次元的研究」を課題とし、活動した。現在、校内暴力、不登校、学級崩壊、いじめなどの報道が毎日のようにみられる。そしてこれらは、学校教育の秩序を揺るがす問題だと定義され、それへの対応として、秩序から逸脱した人や状態をどのように秩序の中に回収するのか、乱れた秩序をどのように再び平衡に戻すのかということが考えられてきた。しかしながら現在、この前提が崩れはじめ、学校のみならず、地域・社会、家庭においても、これまでの秩序にもどせばいい、という発想ではうまくいかなくなっているのが現状ではないだろうか？グローバル化や電子メディア空間の影響もあって、既存の秩序への再編というストラテジーがもはや無効になっていると言っても過言ではないように思う。そこで、今回の研究課題においては、学校、地域・社会、家庭、電子空間といった複数の空間での人々の相互作用の在り方を解明し、秩序のゆらぎがどのようなものであるかを明らかにするとともに、その中で、どのような秩序が動的に、新たに、立ち上がってくるのかということを探求するために、実践・研究を行ってきた。

平成 30 年度は、これまでの研究やアウトリーチ活動を継続するとともに、これまでに得られた知見や経験を学際的に統合するため、異なる分野の教員が共に議論する「知的コラボの会」に力を入れている。

また、教育実践コラボレーション・センターの一組織である E.FORUM（教育研究開発フォーラム）は、現職教員の力量向上のために、研修やセミナーを提供するとともに、学校現場の課題解決に資するための研究開発を推進するネットワーク構築をめざしている。

〈講演会・シンポジウム・ワークショップなど〉(2018年4月1日～2019年3月31日)

研究会「大学入試のあり方を問うー国際比較を通して」

- 日程：2018年5月12日(土)13時30分～16時30分
- 場所：京都大学本部構内 総合研究2号館 教育学部第一講義室
- 後援：教育実践コラボレーション・センター E.FORUM
(主催：日本教育学会近畿地区)
- 講師：南部広孝(京都大学)、細尾萌子(立命館大学)、次橋秀樹(京都大学大学院学生)

課題研究セミナー

- 日程：2018年6月5日(火)
- 場所：福岡県立京都高等学校
- 講師：服部憲児(京都大学)

第26回 知的コラボの会「世界市民的教育のポテンシャル」

- 日時：2018年6月7日(木)15時30分～17時30分
- 会場：京都大学教育学部本館1階 第1会議室
- 話題提供：広瀬悠三(京都大学)

E.FORUM 全国スクールリーダー育成研修

- 日程：2018年8月17日(金)、18日(土)
- 場所：京都大学吉田キャンパス 法経済学部本館1階 法経第四教室ほか
- 講師：赤沢早人(奈良教育大学)、八田幸恵(大阪教育大学)、鉾山泰弘(追手門学院大学)、大貫守(愛知県立大学)、赤沢真世(大阪成蹊大学)、盛永俊弘(京都大学)、田中容子(京都大学)、北原琢也(京都大学)、齊藤智(京都大学)、西岡加名恵(京都大学)、石井英真(京都大学)、服部憲児(京都大学)、次橋秀樹(京都大学大学院学生)

学校整備の支援およびフィールドワーク

- 日程：2018年9月10日(月)～15日(土)
- 場所：長崎市立池島小学校
- 担当：服部憲児(京都大学)ほか教育学部学生

京都大学大学院教育学研究科・北京師範大学教育学部 学術交流活動2018

- 日時：2018年11月30日(金)～12月4日(火)

- 場所：京都大学教育学部本館 1 階 第 1 会議室
- 主催：中国・北京師範大学教育学部、教育実践コラボレーション・センター

E.FORUM 講演会

「進路多様高校における、社会に開かれた教育を通じたカリキュラム開発」

- 日時：2018 年 12 月 15 日（土）14 時～16 時
- 場所：京都大学本部構内 総合研究 2 号館地下 1 階 教育学部第二講義室
- 講師：望月未希（東京都立多摩高等学校）

第 27 回 知的コラボの会「移民にとっての幸せとは—ソーシャルワーク的アプローチ—」

- 日時：2018 年 12 月 20 日（木）13 時～14 時 30 分
- 場所：京都大学教育学部本館 1 階 第 1 会議室
- 話題提供：安藤幸（京都大学）

第 28 回 知的コラボの会「万国博覧会について考えませんか？」

- 日時：2019 年 2 月 28 日（木）15 時～17 時
- 場所：京都大学教育学部本館 1 階 第 2 会議室
- 話題提供：佐野真由子（京都大学）

研究集会「英語教育はどうなるのか」

- 日程：2019 年 3 月 9 日（土）14 時～17 時
- 場所：京都大学本部構内 総合研究 2 号館 教育学部第一講義室
- 後援：教育実践コラボレーション・センター E.FORUM
(主催：日本教育学会近畿地区)
- 講師：飯田毅（同志社女子大学）、田中容子（京都大学）、杉本均（京都大学）

E.FORUM 全国スクールリーダー育成研修「第 14 回実践交流会」

- 日時：2019 年 3 月 23 日（土）10 時～16 時
- 会場：京都大学吉田キャンパス 吉田南総合館東棟共東 12
- 講師：石井英真（京都大学）

グローバル教育展開オフィス

平成 29 年度に新設の「グローバル教育展開オフィス」は、平成 30 年度の教育学研究科における大学院組織再編とともに、本格的に活動を開始させた。グローバル教育展開オフィスは、研究科の学際的研究教育拠点として、新時代の教育課題に取り組み、その成果を国内外に発信していくことを目的としている。

グローバル教育展開オフィスは、「創生開発ブランチ」と「国際教育支援ブランチ」の 2 部門からなる。創生開発ブランチは、オフィスの統括と研究プロジェクトの推進を主に担当し、国際教育支援ブランチは、海外研究機関との学術交流の展開や大学院を中心とするグローバル教育の企画と実施を主に担当している。今年度は、以下に示すようなさまざまな活動に取り組んだ。

<研究プロジェクト>

グローバル教育展開オフィスを中心として、「新しい理論的・実践的基盤に立った教育文化・知の継承支援モデルの構築と展開」をテーマにしたプロジェクトを進めている。このプロジェクトの目的は、日本の教育を支えてきた文化のしきみをグローバルな視野から問い直すことによって、教育の新しいグローバル・スタンダードとそれに基づく教育モデルの可能性を、理論・実践の両面から探究し、その成果を国内外に発信していくことにある。今年度は、理念モデルと、「発達を軸にした先端的理論と支援モデル」「伝統文化から先端技術まで含む学習環境の変容と支援モデル」「世代間、世代内の関係性の歴史の変容と支援モデル」の 3 つの支援モデルを軸にそれぞれチームを立ち上げ、研究を進めていくこととなった。

<グローバル教育科目の設置>

「グローバル教育科目」は、修士課程および博士後期課程の院生を対象に、グローバルな視野で研究や実践を行うためのスキルを身につけることを目的としている。これまでも行われてきた「国際合同授業」と「国際教育研究フロンティア」に、新設科目である「国際インターンシップ」と「国際フィールドワーク」を加え、今年度に「グローバル教育科目群」として整備し、実施した。

<大学院生への支援>

グローバル教育展開オフィスでは、大学院生の国内外における積極的な研究教育活動を支援している。今年度は、「グローバル教育科目」を履修する学生、および国際学会において口頭またはポスター発表を行う学生を対象に、海外渡航費の一部を補助した。

<連続講演会>

Special Opening Lecture

「オックスフォードから見た<ニッポンの教育> 社会学的アプローチ」

- 日時：平成 30 年 4 月 12 日（木）15 時 30 分～17 時
- 会場：京都大学総合研究 2 号館 第 1 講義室
- 講演者：荻谷剛彦教授（オックスフォード大学ニッサン現代日本研究所）

グローバル教育展開オフィス

レクチャー・シリーズ第2回

「Research-based Development of Finnish Education (フィンランドにおける教育のリサーチベースによる展開)」

- 日時：平成30年6月6日(木) 15時30分～17時30分
- 会場：京都大学教育学部本館1階 第1会議室
- 講演者：エルノ・レヘティネン教授(フィンランド・トゥルク大学)

レクチャー・シリーズ第3回

「Opportunities and Risks of Parental Homework Involvement: Insights from Germany and Switzerland」

- 日時：平成30年10月5日(金) 17時～19時
- 会場：京都大学教育学部本館1階 第1会議室
- 講演者：ハンナ・ドゥモン上級研究員(ドイツ国際教育研究研究所)

レクチャー・シリーズ第4回

「Making Tea, Making Japan -茶道と日本文化を考える-」

- 日時：平成30年11月11日(木) 13時30分～15時30分
- 会場：京都大学国際科学イノベーション棟5階 会議室 a・b
- 講演者：クリステン・スーラック准教授(ロンドン大学東洋アフリカ研究学院)
- パネリスト：松村栄子氏(小説家)、竹内里欧准教授(京都大学大学院教育学研究科)

<グローバル教育展開オフィス開設記念シンポジウム>

「グローバル時代における『日本型』教育文化のあらたな可能性」

- 日時：平成30年12月1日(土) 13時～17時
- 会場：京都大学国際科学イノベーション棟5階 シンポジウムホール
- 基調講演者：ロジャー・グッドマン教授(オックスフォード大学)、ジョセフ・トービン教授(アメリカ・ジョージア大学)、高山敬太准教授(オーストラリア・ニューイングランド大学)
- モデレーター：ジェレミー・ラプリー准教授(京都大学大学院教育学研究科)

平成30年度 学位（博士）授与者及び題目一覧

論文博士 ※平成31年3月授与まで

氏 名	論 文 題 目
久 米 禎 子	箱庭療法における「遊び」に関する研究 —作り手の主観的体験と「遊び」の場の生成過程に着目して—
高 石 恭 子	自我体験の心理学的研究 —ライフサイクルの観点からみた〈私〉との出会いの体験の意味—

課程博士 ※平成31年3月授与まで

氏 名	論 文 題 目
井 芹 聖 文	心理臨床における構造化に関する研究 —「自己関係」と「私の生成」を中心に—
熊 木 悠 人	幼児期における資源分配行動とその認知的基盤に関する研究
田 村 徳 子	ブラジルの校長直接選挙制度の機能に関する研究
粉 川 尚 枝	心理療法場面で生じる夢の実証研究
田 中 友香理	身体接触を介した母子間相互作用—行動・認知神経科学からのアプローチ
伊 川 美 保	食品リスク認知に関わるリスクリテラシーの測定と育成
河 村 悠 太	利他行動の促進・抑制過程：評判への関心に基づく検討
柳 岡 開 地	幼児期におけるルーティンの獲得と実行機能の相補的關係の検討
藤 野 正 寛	洞察瞑想による情動調整の心理・神経メカニズムの研究
須 永 哲 思	1950年代における桑原政雄の「郷土教育」構想—資本主義認識のための社会科学の可能性—
山 田 勉	学生参加による高等教育の質保証—「欧州高等教育圏における質保証の基準とガイドライン」に関する批判的考察に基づいて—
中 島 悠 介	湾岸諸国における海外分校質保証の特質に関する研究

修士論文題目一覧

氏名	論文題目
大久保 遥	現代における家庭訪問の機能 —京都市内の中学校を事例として—
菊池 壮太	「他者と共に / のために呼応する教育学」構想 —P. リクルール思索の「隠喩論」と「他者論」の間を巡って—
喜村 奈都子	日本の教育政策におけるエビデンスの特徴 —教職員定数に関する議論に着目して—
栗崎 慎太郎	仲本正夫の数学教育実践に関する検討 —「書くこと」の意義に着目して—
澁谷 輝生	岡倉由三郎の英語教育論に関する一考察 —新教授法における「読書力」の養成に注目して—
二木 秀之	検索誘導性忘却に及ぼす文脈情報の影響：カテゴリ情報を用いた検討
三井 真吾	平野武夫による道徳教育論の意義と課題
森本来 希	近藤益雄による知的障害児教育の思想と実践 —三木安正との比較に焦点を合わせて—
池田 潮良	内在化した道徳と攻撃行動との関わりの研究
王 隆基	企業広告における畏怖・懐かしさ感情の効果
澁川 幸加	反転授業における事前学習への取り組み方に関する調査研究
杉山 芳生	医療分野の事例分析に基づく PBL の持続可能性に関する検討
高野 了太	畏敬の念の神経基盤に関する研究
武田 萌	ヒューム『人間本性論』における「共感」 —自己のあり方をめぐる問題—
西口 美穂	単文産出過程に及ぼす視覚情報の影響
山口 将典	Children's recognition of their imaginary companions
若松 大輔	リー・ショーマンによる教師の力量形成論に関する一考察
呉 江城	中国の消費社会化と「小資」概念の変容 —『南方都市報』・『羊城晚報』・『広州日報』の分析を中心に—
杜 亦舟	浮上する「ネット論壇」の比較メディア論
彭 永成	ブライダル情報誌『ゼクシィ』に見る 結婚イメージの個人化
奥山 恭平	レトリック的思考の人間形成的意義 —三木清を手がかりに—
小保内 太紀	漫才文化についての社会学的研究 —M-1 グランプリを中心に—
柿崎 健太	田辺哲学における「種の論理」の修正 南原繁からの批判の影響

梶原 駿	政治教育と弱い主体 —デューイの美的経験論を中心に—
小 畠 純 一	思春期男子の親子関係における依存と独立の関係性の検討 —統合型 HTP 法を用いて—
高 谷 掌 子	〈ある〉と〈ありうる〉 —西田幾多郎の「私と汝」論を中心に—
長 谷 雄 太	反社会性と発達障害傾向の在り方についての検討 —TAT での語りを通して—
西 岡 真由美	男性性暴力被害者の体験とその語り —生き延びる上での支えに着目して—
森 七 恵	『存在と時間』における自己存在 —現存在の「自立性 (Selbständigkeit)」とは何か—
柳 澤 友里亜	田邊元における個の創造的行為について —微分から切断への移行を手がかりに—
山 岸 礼 門	成人の playing についての研究 —Squiggle の体験の検討から—

卒業論文題目一覧

氏名	論文題目
浅川 裕子	高等学校におけるキャリア教育に関する一考察 —「産業社会と人間」に焦点を合わせて—
五十嵐 梢	他者信念の表象モデルの検討 ～乳児に対する非言語的誤信念課題を通して～
磯本 早希	高橋潔の「聾啞」教育論
今中 培	大学生の規範意識に関する実証研究 —セルフ・コントロールとの関係
臼井 祐輝	エピソード的未来思考による遅延割引抑制の検討
江谷 友梨	ヒトとロボットの社会的相互作用 —個人差に着目して
大西 真央	青木幹勇による国語教育の理論と実践
大野 正輝	知覚的に立ち現れる夢 —大森荘蔵の言語的創作論を手掛かりに—
金子 岳史	東井義雄の教育論の展開 —「生活の論理」に着目して—
小柳 亜季	言語教育の目的論に関する検討 —大津由紀雄の「ことばへの気づき」に着目して—
佐久間 麗	『存在と時間』における公共化された時間についての考察
下村 英之	動き続ける民主主義と市民性教育 —デューイのプラグマティズムを手がかりに—
仲 和志	横地清の数学教育論 —「量」の指導に着目して—
中来田 敦美	東基吉による保育論の検討
宮崎 奨之	ハイデガーにおける自他関係 —『存在と時間』における共同存在論を手がかりにして—
森 魁瑠	有用性に従属する教育から脱するために —バタイユによる「蕩尽」としての芸術論を手掛かりに—
森川 真由子	教育の国際化と「日本人らしさ」の再考 —偏心円的コスモポリタニズムに向けて
山田 航太郎	英語教育における語彙指導のあり方 —Paul Nationの所論に注目して—
小森 真人	三藤恭弘による「物語の創作」学習指導
CURTOTTI ROHAN LUCIO	L. コールバーグによるジャスト・コミュニティの理論と実践
射場 康輔	道徳性伝達と言語の限界 —後期ワイトゲンシュタインの言語ゲームを手掛かりに—
野口 愛実	自己の存在意義と承認 —ホネットの承認論を手がかりに—

松岡昌平	アトラクションとしての教育 —デューイ教育思想における探究の変容—
吉野有哉	シユタイナー教育はいかにして子どもの創造性を育むか —その芸術体験を手掛かりにして—
横田 絢	わたしたちのための演劇 —現代演劇の上演の成立と一時的共同体の形成—
大坂陽子	大学生の母親との関係性の捉えと母親イメージに関する一考察 —TATでの語りから—
小島七海	フロー体験と心理・遺伝子多型との関わり
澤田和輝	自然災害のプライミングが社会規範に及ぼす影響に関する実験的検討 —Aweの観点から—
新谷夏海	記憶の抑制が創造性課題に及ぼす影響
西岡小春	大学生における身体醜形懸念と関係念慮及び 加害恐怖・被害恐怖の関連について
西村美波	大学生の先延ばし行動に及ぼす課題特性と性格特性の影響
平安山智史	カウンセリング対話におけるセラピストの無意識的発話の考察 —フィルターを手がかりとして—
松村遼平	大学生アスリートにおける不安と実力発揮の関係 —「防衛的悲観主義」アスリートの不安対処法に着目して—
宮原舞優	聴覚障害学生における障害に対する態度
村林奈保	大学生の恋愛関係において生じる異質性についての考察
上田裕也	セクシュアル・マイノリティ（男性同性愛者）のアイデンティティ確立に至る 心的プロセスについて —ライフライン・インタビュー・メソッドを用いた質的研究—
松尾理奈	青年期における自己実現的活動と達成動機 およびコスト認知傾向との関連の検討
黒田拓海	自己を「彩る」プロセスに伴うイメージの変容体験をめぐって —風景構成法の彩色段階を用いた検討—
西澤園子	青年期における内的作業モデルと情動統制プロセスの関係 —TATの語りを通じた心的体験の検討から—
橋本新吾	青年を対象とした人間関係における諦めに関する 主観的体験プロセスの質的検討
麻野沙央織	「安珍・清姫」伝説の深層心理学的考察 —女性の個性化に注目して—
石黒峻平	中学校における英語教育の日韓比較
岩城史奈	家族介護における介護者と被介護者の関係性
上田翠里	日本型教育の海外展開に関する考察
神崎七海	中国延辺朝鮮族自治州における言語政策 —双語教育を中心に—

平成30年度卒業論文

桑原利旺	欲望と賤下の対象としての不倫 —ジラールの理論を用いて—
高岡義大	大学における学生のアルコール指導
高松慶	教員の科学的リテラシーの現状とその向上のための方策
玉置凱	ハイファッションにおけるジェンダー秩序の表象分析 —攪乱と再強化をめぐって—
中村彩華	オリンピック報道における女性アスリートの負けの語られ方
中村彰吾	フランスにおける批判的思考力の教育
中山中	英国の継続教育カレッジに関する考察
平栗颯	「公共」にみる“日本人らしさ”の考察
平松駿弥	地方私立大学の公立化の決定要因に関する研究
藤田優希	母子世帯向けシェアハウスの実践と可能性 —文化資本と社会関係資本の観点から—
前田智朗	アニメ産業における憧れと職業規範 —「やりがい搾取」の観点から—
増田大輝	葬送文化からみるペットの擬制家族化とその機能
松川大将	イヌイットの民族教育についての考察
彌榮のどか	イギリスにおける拡大学院に関する考察
南畑真純	女性の社会進出と生活満足度に関する国際比較分析
森田剛史	公立小中学校の施設複合化に関する研究 —先進事例の検討を通じて—
山木恵美	犯罪報道における女性被害者の分析
横山尚人	「次代を担う人材の育成」に資する放課後児童対策の検討 —指導員の専門性に着目して—
吉木理沙子	日本の「特別の教科 道徳」における評価方法の検討 —アメリカのキャラクター・エデュケーションと比較して—
渡邊佑哉	地域とプロスポーツの連携についての考察
宇野達哉	小学校低学年の国語教科書における女性語の変遷
森本翔太	高等教育における国際化の現状と課題 —交換留学制度からの考察—
若野健太郎	レコード趣味の再構築過程 —『レコード芸術』の分析から—
渡辺晋太郎	日本における精神障害者のインクルージョン推進のために —メンタルヘルスリテラシー向上の観点から—

執筆者紹介（執筆順）

不破 早央里	心理臨床学講座 博士後期課程 2 回生
桑本 佳代子	臨床実践指導学講座 博士後期課程 3 回生
石井 佳葉	臨床心理実践学講座 博士後期課程 3 回生
元木 幸恵	臨床心理実践学講座 博士後期課程 2 回生
大森 智恵	臨床実践指導学講座 博士後期課程 2 回生
竹森 元彦	臨床実践指導学講座 博士後期課程 2 回生
佐々木 大樹	臨床実践指導学講座 博士後期課程 2 回生
西 珠美	心理臨床学講座 博士後期課程 3 回生
松岡 利規	心理臨床学講座 博士後期課程 2 回生
大場 有希子	心理臨床学講座 博士後期課程 2 回生
野田 実希	心理臨床学講座 博士後期課程 2 回生
鎌田 依里	臨床実践指導者養成コース 博士後期課程 1 回生
大澤 尚也	臨床心理学コース 博士後期課程 1 回生
杉本 均	教育社会学講座 教授
山本 陽葉	比較教育政策学コース 修士課程 1 回生
椎名 健人	教育社会学講座 助教
木下 浩一	生涯教育学講座 博士後期課程 2 回生
ジャルガルサイハン ジャルガルマー	日本学術振興会特別研究員 比較教育政策学講座 博士後期課程 2 回生
奥村 旅人	比較教育政策学講座 博士後期課程 2 回生
趙 相宇	日本学術振興会特別研究員 教育文化学コース 博士後期課程 1 回生
松尾 理也	大阪芸術大学短期大学部教授 教育文化学コース 博士後期課程 1 回生
張 潔麗	比較教育政策学コース 博士後期課程 1 回生
舩本 佳菜江	教育学講座 博士後期課程 3 回生
西郷 南海子	臨床教育学講座 博士後期課程 3 回生
次橋 秀樹	教育方法学講座 博士後期課程 3 回生
中西 修一朗	教育方法学講座 博士後期課程 3 回生
藤本 奈美	臨床教育学講座 博士後期課程 3 回生
徳島 祐彌	教育方法学講座 博士後期課程 3 回生
市川 和也	教育方法学・発達科学コース 博士後期課程 1 回生
森本 和寿	日本学術振興会特別研究員 教育方法学・発達科学コース 博士後期課程 1 回生
飯尾 健	高等教育開発論講座 博士後期課程 2 回生
郭 暁博	教育学研究科 助教

※投稿論文数は 35 件、うち 31 件の論文を採択した。

京都大学大学院教育学研究科紀要投稿規程

2015.04.14 改訂

2016.05.10 改訂

2018.04.10 改訂

(1) 投稿資格

単著論文の場合、執筆者は、本研究科教員・研究員・研修員および博士後期課程 1 年次以上の大学院学生とする。ただし、研修員については少なくとも受け入れ教員 1 名の推薦、大学院学生については少なくとも指導教員 1 名の推薦のある者に限る。

上記の資格をもつ者が年度途中で身分を変更した場合にも、少なくとも前期に在籍すれば、投稿資格をもつ。ただし、身分変更を速やかに届けて、変更後にも紀要編集委員会と連絡が取れる状態にあることを条件とする。以上の条件を満たさない場合には、投稿資格を失う。

共著論文の場合、本研究科教員が第一著者となり、学内外の研究者（修士課程 1 年次以上の大学院学生を含む）を共著者とするもの、または本研究科研究員が第一著者となり、本研究科教員を共著者とするものに限る。

(2) 内容

原稿の内容は未発表の学術論文とする。

(3) 使用言語

原則として自由。ただし、外国人留学生は日本語で投稿すること。

(4) 原稿枚数

A4 用紙で 1 枚当たり「42 字×38 行」とし、第一著者が本研究科教員の論文は 25 枚（本文 24 枚+アブストラクト 1 枚）、それ以外の論文は 13 枚（本文 12 枚+アブストラクト 1 枚）を上限とする。外国語論文の枚数もこれに準じる。

(5) 投稿要領

投稿に際しては、執筆注意事項指定の書式に従い、原稿を締切日までに指定された提出先に提出のこと。

(6) 投稿・問い合わせ先

紀要編集委員会

(7) 原稿の掲載の可否

原稿の掲載の可否については、学外の専門家を含む複数の審査委員による査読を基に紀要編集委員会が決定する。

(8) 著作権

本紀要に掲載された論文の著作権は本研究科に属する。

編集委員 南部 広孝 田中 康裕
田中 智子 久富 望

平成31年 3月12日 印刷

平成31年 3月27日 発行

発行人 京都大学大学院教育学研究科
代表者 稲垣 恭子

印刷所 株式会社 北斗プリント社
〒606-8540 京都市左京区下鴨高木町38-2
TEL (075) 791-6125

発行所 京都大学大学院教育学研究科
京都市左京区吉田本町
